

ダイヤモンド就活ナビ2022 就職モニターレポート1月調査

【調査概要】

- ◆調査対象 2022年3月卒業予定の大学院生・大学生
- ◆有効回答 622名
- ◆調査期間 2021年1月8日（金）～2021年1月17日（月）
- ◆調査方法 WEB入力フォームより回答

【回答学生の内訳】

文系	理系
474名 (76.2%)	148名 (23.8%)

【回答の多かった学生】

早稲田大学、慶應義塾大学、東京大学、
明治大学、立教大学、中央大学、
青山学院大学、同志社大学、
関西学院大学、千葉大学、成蹊大学、
成城大学、明治学院大学、國學院大學、
東洋大学、北星学園大学

【大学エリア別回答学生数】

北海道	77	12.3%
東北エリア	6	1.0%
関東エリア	375	60.3%
甲信越エリア	18	2.9%
東海・北陸エリア	20	3.2%
関西エリア	85	13.7%
中・四国圏エリア	38	6.1%
九州・沖縄エリア	3	0.5%
合計	622	100%

◆TOPICS◆

※インターンシップ類：インターンシップ、1日仕事体験、キャリア支援プログラム等を含めます。

<インターンシップ類参加状況>

インターンシップ類参加率は72.7%。昨年とほぼ横ばい。
実施形態はオンライン形式がトップ、参加したいインターンシップ類は「対面」が約6割。

<インターンシップ類選考>

選考経験者は74.4%。
選考内容は適性テスト・筆記テストが大幅に増加。

<インターンシップ類に参加して>

参加して「志望度が上がった」約8割。
参加した企業の採用募集に「応募する」9割以上。

<就職活動進捗状況>

約3割の学生が採用選考に進んでいる（29.9%）。
就職活動に向けて「大いに楽観視している」学生はゼロ。

<志望業界・企業>

志望決定状況〈業界〉83.6% 〈企業〉70.7%。
入社したい企業「やりがい、適性が合えば企業規模は問わない」が約5割。

【本調査に関するお問い合わせ】



株式会社
ダイヤモンド・ヒューマンリソース

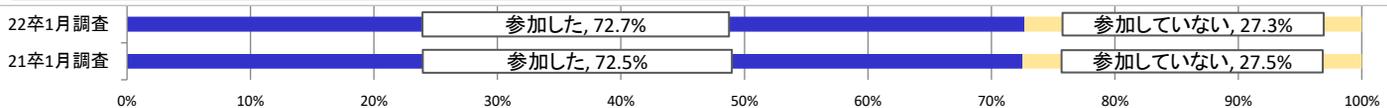
経営企画室

TEL : 03-5319-2450

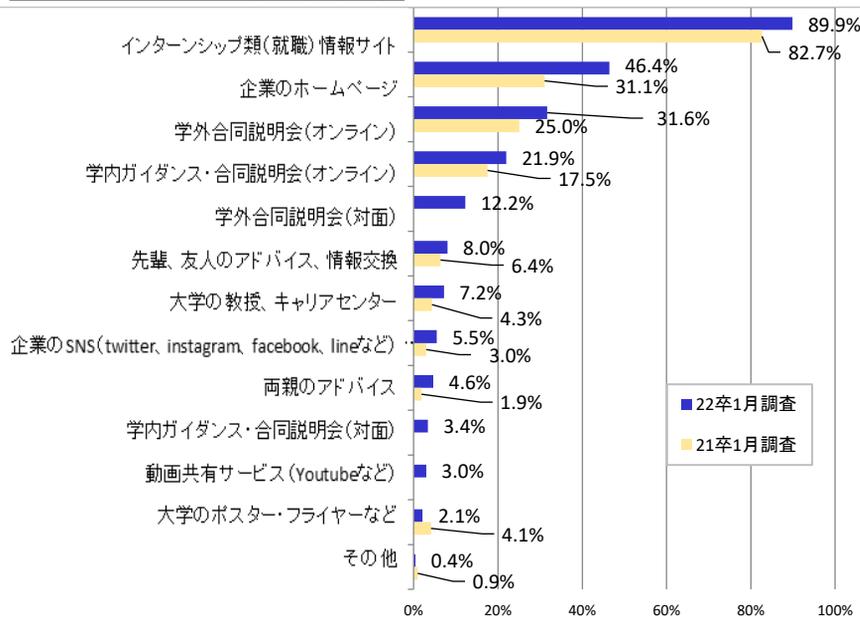
E-mail : marketing@diamondhr.co.jp

インターンシップ類参加状況

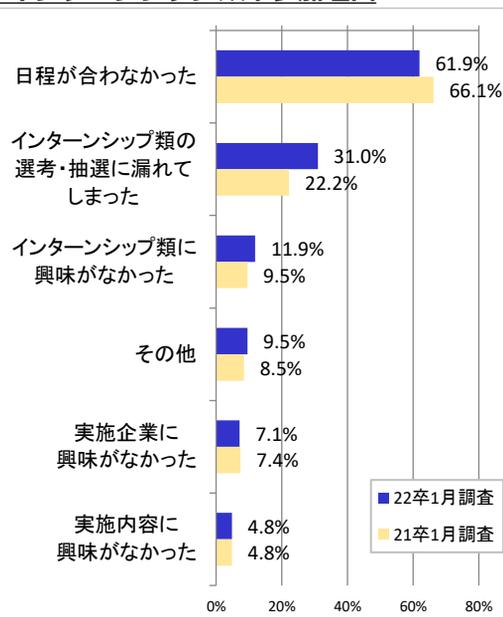
◆今年度の企業主催のインターンシップ類に参加しましたか？



◆参加のきっかけ、情報収集手段



◆インターンシップ類不参加理由



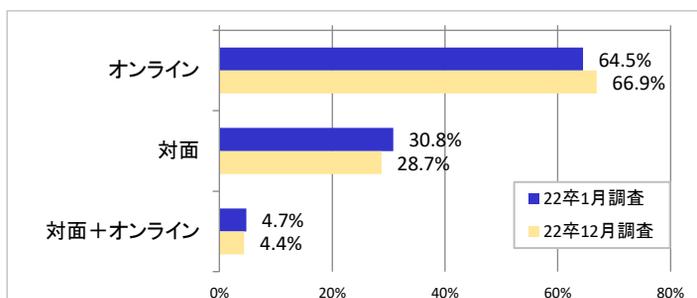
インターンシップ類参加率は72.7%。参加のきっかけは「インターンシップ類(就職)情報サイト」が約9割。

インターンシップ類に参加した学生は72.7%と昨年(72.5%)から横ばいで推移した。

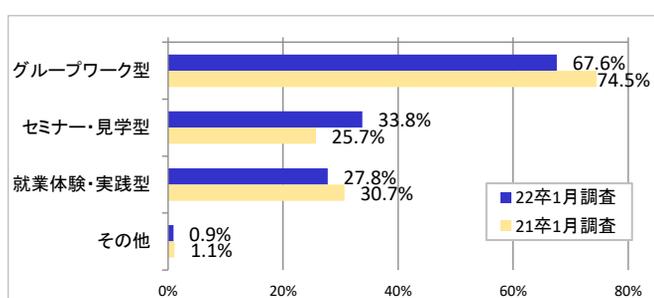
参加のきっかけは「インターンシップ類(就職)情報サイト」(89.9%)、「企業のホームページ」(46.4%)、「学外合同説明会(オンライン)」(31.6%)、「学内ガイダンス・合同説明会(オンライン)」(21.9%)の順となり、コロナ禍の影響かオンライン経由の情報が上位を占めている。

不参加の理由は「日程が合わなかった」(61.9%)は昨年同様だが、「選考・抽選に漏れた」(31.0%)が昨年から8.8ポイント増加している。

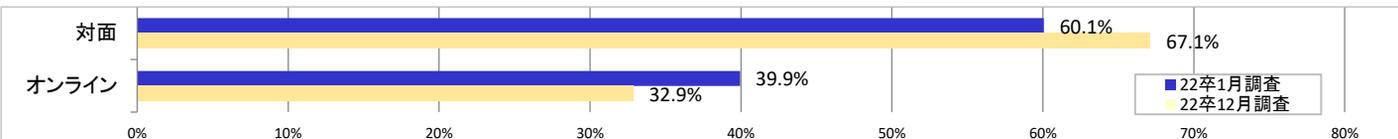
◆実施形態



◆実施形式



◆対面とオンラインではどちらのインターンシップ類に参加したいですか？



実施形態はオンライン形式がトップ、参加したいインターンシップ類は「対面」が約6割。

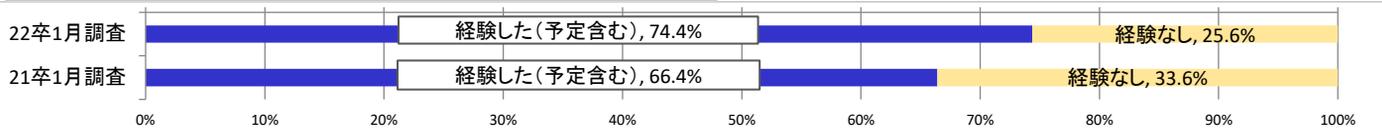
インターンシップ類参加方法は「オンライン」(64.5%)がトップで、「対面+オンライン」(4.7%)も含めると合計69.2%と、約7割の学生がオンライン形式のインターンシップ類に参加している。

実施形式は「グループワーク型」(21卒:74.5%→22卒:67.6%)が減少した一方で、「セミナー・見学型」(21卒:25.7%→22卒:33.8%)は増加した。

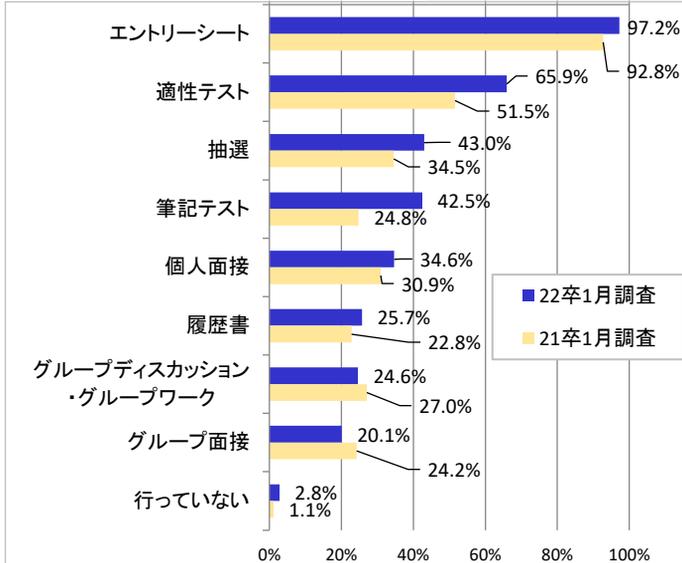
学生の希望する参加形式は「対面」(60.1%)が多いものの、「オンライン」を希望する学生も前月から7ポイント増加している。

インターンシップ類選考

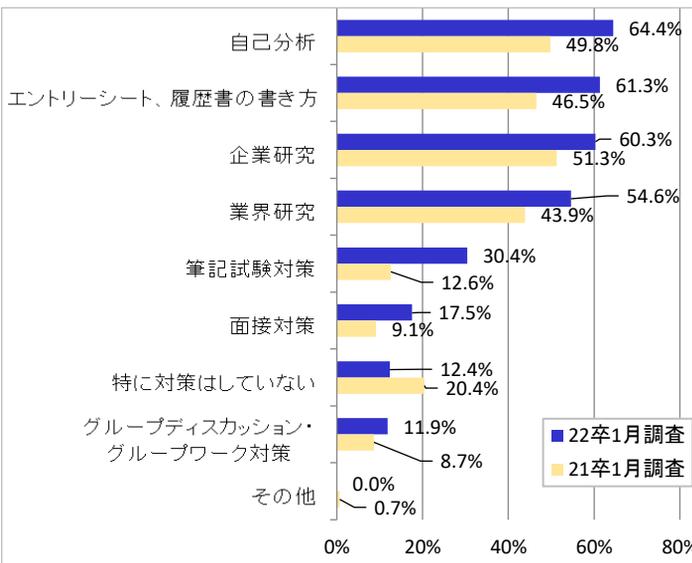
◆インターンシップ類参加のための選考は経験しましたか？



◆それはどのような選考でしたか？



◆選考のためにどのような対策を行いましたか？

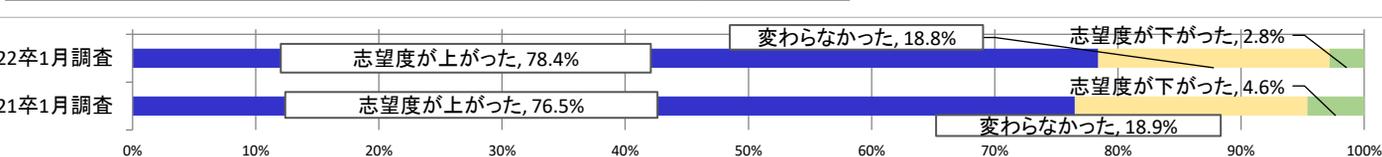


選考経験者は74.4%。選考内容は「エントリーシート」がトップ。選考内容は適性・筆記テストが大幅に増加。

インターンシップ類参加のための選考を「経験した(予定含む)」(74.4%)学生は、昨年(66.4%)から8.0ポイント増加した。選考内容は「エントリーシート」(97.2%)がと突出して多いが、「適性テスト」(21卒:51.5%→22卒:65.9%)、「筆記テスト」(21卒:24.8%→22卒:42.5%)が昨年から大幅に増加した。インターンシップ類選考の対策を行う学生も増加した。

インターンシップ類に参加して

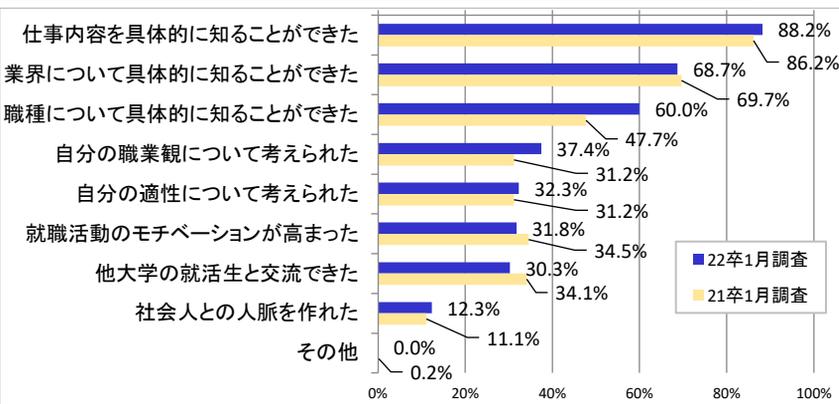
◆インターンシップ類に参加した企業の志望度に変化はありましたか？



◆インターンシップ類に参加した企業の採用募集に応募しようと思いますか？



◆インターンシップ類に参加してよかった点を教えてください。



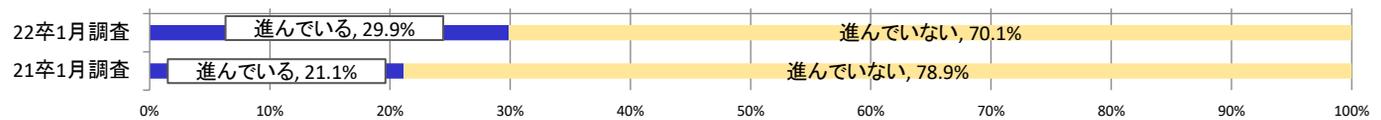
参加して「志望度が上がった」約8割。採用募集に「応募する」9割以上。

インターンシップ類に参加した企業の「志望度が上がった」(78.4%)学生は昨年の76.5%より1.9ポイント増加した。「応募する」(94.3%)は昨年の89.7%より4.6ポイント増加した。

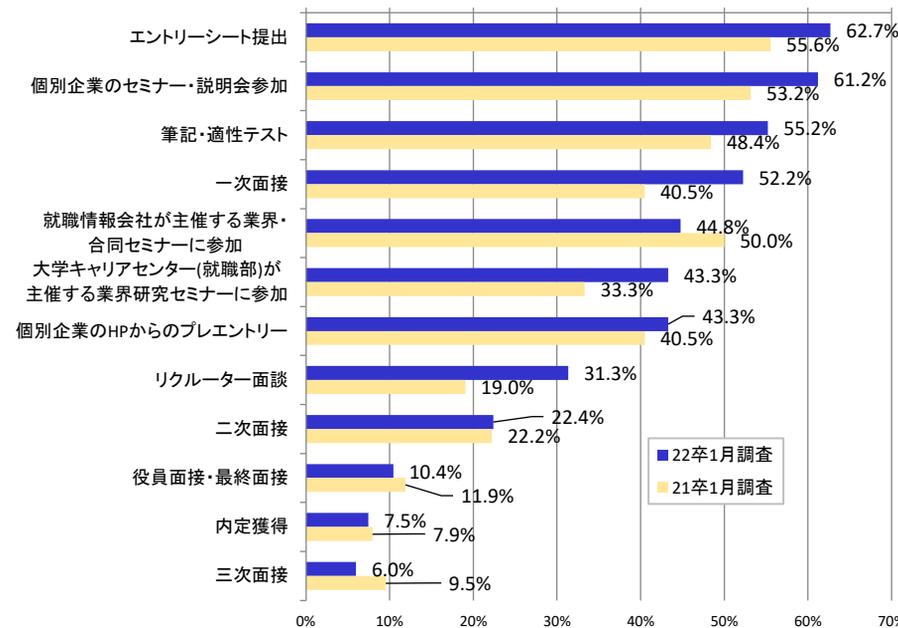
約9割の学生が「仕事内容を具体的に知ることができた」(88.2%)と回答しており、学生の志望意欲を高めるツールになっていると考えられる。

就職活動進捗状況

◆企業の採用選考に進んでいますか？

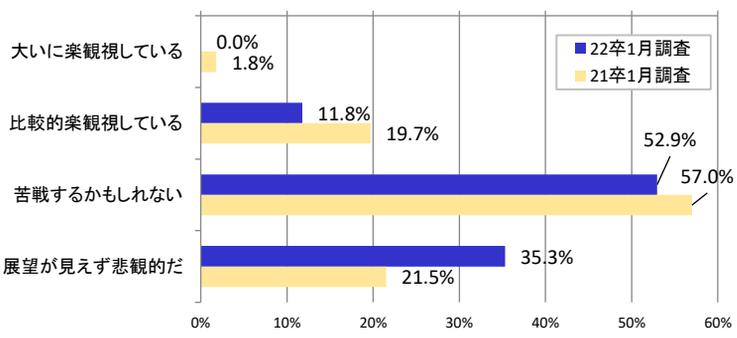


◆現在の採用選考の進捗状況について、当てはまるものを全て選択してください。



平均回・社数	22卒1月	21卒1月
大学キャリアセンター(就職部)主催業界研究セミナー	6.3	3.5
就職情報会社が主催する業界・合同セミナー	7.8	3.7
個別企業HPプレエントリー	22.5	13.1
個別企業セミナー・説明会	9.4	3.9
エントリーシート提出	6.5	2.9
筆記・適性テスト	4.3	2.1
リクルーター面談	1.6	1.3
一次面接	1.8	2.4
二次面接	1.5	2.1
三次面接	1.2	1.4
役員面接・最終面接	1.1	1.4
内定獲得	1.0	1.2

◆就職活動に向けて、現在の考えに近いものをお答えください。



**採用選考に進んでいるのは29.9%。
就職活動に向けて「大いに楽観視している」0.0%。**

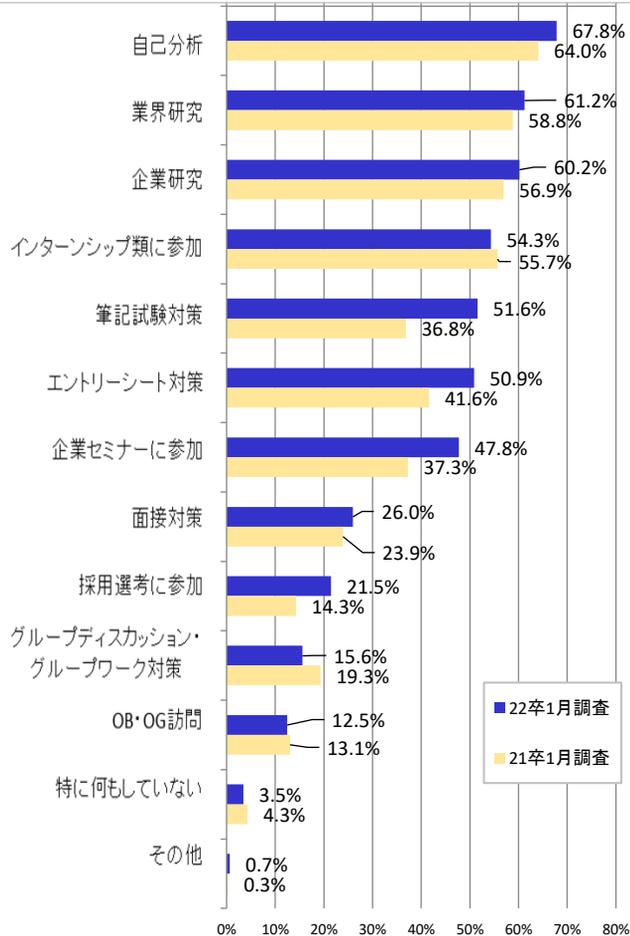
企業の採用選考に「進んでいる」学生は29.9%で、約3割の学生が選考へと進んでいる。

進捗状況は「エントリーシート提出」(62.7%)がトップで、平均回数も21卒：2.9社→22卒：6.5社と倍以上に増加している。他の項目でも「大学キャリアセンター(就職部)主催業界研究セミナー」(21卒：3.5回→22卒：6.3回)「就職情報会社が主催する業界・合同セミナー」(21卒：3.7回→22卒：7.8回)など、選考初期の段階では平均回数・社数が増加している。

就職活動に向けて「大いに楽観視している」は0.0%で、「苦戦するかもしれない」(52.9%)と「展望が見えず悲観的だ」(35.3%)の合計が88.2%になり、コロナ禍の影響が約9割の学生が就職活動に対して身構えているようだ。

就活準備状況では「選考内容」で増加した「筆記試験対策」に力を入れる学生が21卒：36.8%→22卒：51.6%と大幅に増加している。

◆今の就職活動の準備状況を教えてください。



志望業界・企業

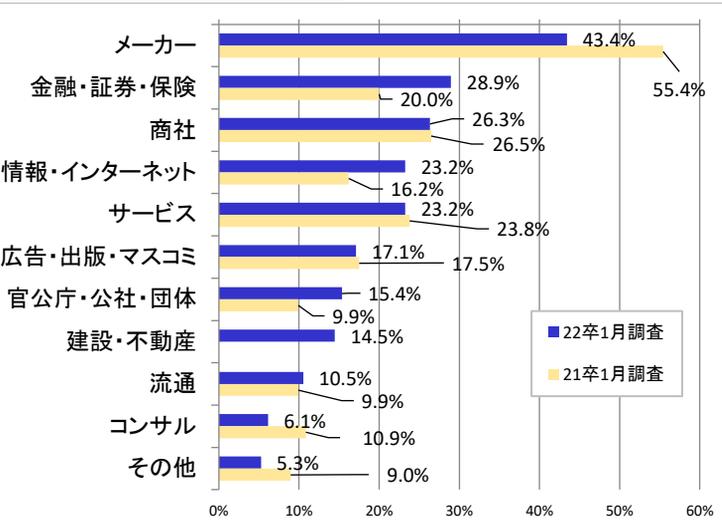
◆志望業界は決定していますか？



◆志望企業は決定していますか？



◆志望業界を教えてください。



志望決定状況

〈業界〉83.6% 〈企業〉70.7%。

志望業界については「明確に決まっている」(30.2%)、「なんとなく決まっている」(53.4%)と「決まっている」が8割以上になった。

志望業界は1位が「メーカー」(43.4%)、2位が「金融・証券・保険」(28.9%)、3位が「商社」(26.3%)となっている。

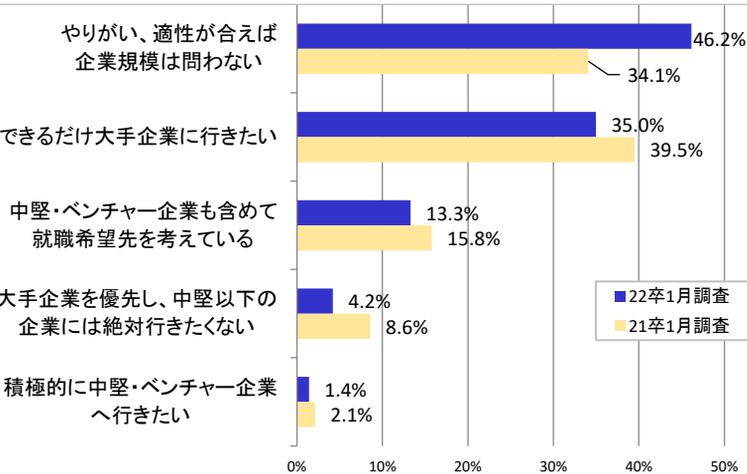
志望企業が決まっている割合は「明確に決まっている」(17.0%)、「なんとなく決まっている」(53.7%)合わせ、約7割となり、昨年より早まっている。

◆企業を選ぶ基準は何ですか？

現在の考えに近いものを3つお答えください。

◆どんな企業に入社したいと思いますか？

現在の考えに近いものをお答えください。



「やりがい、適性が合えば企業規模は問わない」が「できるだけ大手企業に行きたい」と逆転。

入社したい企業は「やりがい、適性が合えば企業規模は問わない」(46.2%)が最も多く、昨年トップの「できるだけ大手に行きたい」と逆転した。

企業を選ぶ基準は「社風が良い」(59.2%)がトップで、昨対比で見ると「安定性(経営基盤)がある」が+6.7ポイントで昨対比比較ではトップになった。

